

「聖霊を受けなさい」
(ヨハネによる福音書20:19-23)

聖霊降臨日、おめでとうございます。

手帳を見返すと、2018年にはこの礼拝を東京諸聖徒教会の神の家族と共に、2019年は立教小学校の聖歌隊、保護者の皆さんと共におささげしたことが記されていました。皆が赤いものを身に着けてきたので、礼拝堂全体が赤色にあふれていたことを思い出します。まさか、昨年、今年がこのような状況になろうとは、当時まったく予想していなかったことです。しかし、いかなる状況であろうとも聖霊降臨の出来事の喜びが減じることはありません。むしろ今こそ、あらためて心から主に感謝してこの礼拝をささげ、聖霊を感じ、聖霊の導きを信じて歩みを新たにしたいと思うのです。そして、合同礼拝などはできない状況ですが、むしろ教会の壁も国境も超えて、世界中で聖霊降臨日を祝う礼拝がささげられていると感じ、世界の人々ともにこの日を祝いたいと思うのです。聖霊こそが、どのような壁をも超え、わたしたちを結び、同じ神の民として生かしてくださるのです。今日、あらためてその聖霊の力を信じ、その導きを祈りましょう。なにより、聖霊を降してくださった主への感謝をもって、礼拝をささげましょう。

ルカによる福音書によれば、主イエスは昇天される直前こう約束されました。「わたしは、父が約束されたものをあなた方に送る。高いところからの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」そして、今日の使徒言行録にあるように、主イエスの昇天から十日後、弟子たちが一つに集まっているところに、この約束は実現しました。突然「激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響きました。弟子たちに吹き荒れたのは、圧倒的な神の力でした。この聖霊を受けた弟子たちは出かけていって、神の救いの業を世界中に宣べ伝える新しい人間へと造り変えられました。

主イエスの昇天後、あの弟子たちが主イエスの務めを担うことになるのです。「あの」弟子たちです。誰が一番偉いかと争い、主イエスを裏切ってしまった、「あの」情けない弟子たちです。しかし、主イエスは彼らをこそ選び、派遣するのです。主イエスは神に「聖霊を弟子たちに遣わしてください」とお願いをし、神はその願いを聞き、聖霊を遣わし、聖霊は圧倒的な力で彼らを造り変え、立ち上がらせ、神の救いを証しするものへと変えてしまったのです。博学でもない、情けない彼らが変わるところに、聖霊の圧倒的な力が鮮明に伝えられます。この聖霊を受けた弟子たちを通して教会が誕生しました。そして教会は主イエス昇天後も、聖霊の導きのもと、世界中に広がり、わたしたちの生きているこの時代の、この場所にまで福音が届けられています。わたしたちは主イエスの昇天から2000年後の東京で、あの日誕生した教会にこうして集められ、神を賛美する時を与えられているのです。この事実こそ、今なおこの世に満ち満ちている聖霊によってわたしたちが生かされていることの証しです。そしてこの事実こそ、聖霊こそがなし得るまさに奇跡です。教会の歴史は過ちの繰り返しです。弟子たちと同じように、大きな過ちを繰り返してきた人間たちが紡いできたのが教会の歴史です。しかし、にもかかわらず、教会という命の群れは途絶えることなく、神の家族として、今この時にも結ばれているのです。この事実こそ、教会が「あの」弟子たちを変えた圧倒的な力である聖霊によって生かされ続けてきたことを証しています。そしてわたしたちは脈々と聖霊によって生かされてきた教会という命の中に今、迎えられているのです。だからこそわたしたちは今日、この聖霊の力にあらためて驚きつつ、この教会という命の群れの中で、自分自身もまた聖霊によって守り、導かれていることを感謝し、祝うのです。

さて、このことは同時に、わたしたちにもこの教会という命の群れ、命の営みを人々に繋げていく役割が与えられているということをも意味しています。ここに今日という日を記念するもう一つの理由があります。今日は主イエスがわたしたちにこの使命を与えられていることを憶え、あらためて聖霊の助けを求めて歩み出す日でもあるのです。わたしたちに与えられている務めとは、あらためて問うならば、それは、教会が脈々と担ってきた務め、つまり、神と人、人と人とを再び結ぶ務めです。

聖霊を受けた弟子たちは、「霊」が語らせるままに、他の国の言葉を語り出し、神の福音を世界中に宣べ伝えるものに変えられました。聖霊降臨の出来事は、バベルの塔の回復の出来事だとも言われます。バベルの塔の話は、神に成り代わろうとした人間の言葉を神が分け、人々を世界中に散らしたというものです。聖霊降臨はそれとはまったく逆に、分けられた言葉を弟子たちが語り、人々が再び同じ福音のもと、すべての民が神のもとで生きると神が聖霊によって起こした出来事です。聖霊の力は、神と人、人と人とを結ぶのです。だからこそ、その力を受けた弟子たちは世界中に派遣され、あまねく地に福音が届けられ、同じ福音に結ばれた人々によって教会は誕生します。ですから、聖霊によって教会に集められているわたしたちもまた、弟子たちと同じようにこの務めを引き継ぐようにと召されているのです。つまり、わたしたち一人ひとりが「この教会」に集められている、派遣されているのです。聖霊によって弟子たちが世界中に派遣されたのと同じように、わたしたちも「東京聖テモテ教会」に、「東京諸聖徒教会」に派遣されているのです。文京区のこの地で、神と人、人と人とを結ぶためです。教会の近くに住んでいる人もいれば、そうでない人もいます。しかし、それぞれが同じ教会に派遣されている事実は変わらず、同じ使命が与えられているのです。今日あらためて、この地に、この教会に派遣されている事実を聖霊を通して見つめ直しましょう。そして、自らに与えられているこの地での使命を担っていく覚悟を新たにしましょう。

神と人、人と人とを再び結ぶ役割。これこそ、主イエスがこの世でなさった和解の業です。今日のヨハネによる福音書では、ご復活の主イエスが弟子に息を吹きかけられ、「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ赦されないまま残る。」と言われました。罪とは、神から離れることです。罪の赦しとは、再び神との関係の中で生かされることです。聖霊を受けなさいと、息を吹きかけられた弟子たちは、主イエスがこの世でなさった神と人、人と人とを再び結ぶ役割担うことを任せられたのです。そして、その弟子たちから教会を通して脈々と受け継がれたその和解の業を担うようにと、わたしたちも招かれています。そう聴くと、そのような務めが果たせるだろうかと不安になってしまうかもしれません。けれども、自信など無くて良いのです。先程も申し上げたように、今教会がここに建っていて、わたしたちがここにいる驚くべき事実を見つめましょう。「あの」弟子たちを変え、2000年間過ちに満ちた教会の命を紡ぎ続けてきた聖霊が、わたしたち一人ひとりに伴ってくださるからこそ、今、わたしたちはここにいるのです。わたしたちはこの聖霊に支えられているからこそ、使命を担う覚悟を決めて歩みを新たにできるのです。主イエスがなさった和解の業を担うなど、わたしたちだけの力では決して出来ません。主イエスはそのようなわたしたちのことをよくご存知です。だからこそ、聖霊をわたしたち一人ひとりに遣わしてくださるのです。聖霊というのは、どこか遠くにいるのではなく、まさに今、ここに吹き荒れている。そして、それと同時にわたしたち一人ひとりの傍ら、真横にいて、わたしたちにすべてのことを教え、導いてくださいます。偉大な聖人にも、どんなにこの世で悪人とされた人にも等しく、神は聖霊を遣わして下さっています。だから、わたしたちは、大丈夫なのです。わたしたちが主を信じて歩みたいと願うなら、聖霊が必ず助けてくださいます。わたしたちが務めを果たそうとするその歩みには、聖霊が必ず伴い、何度転んでしまったとしても、聖霊は必ずわたしたちを起こし、教え、導いてくださいます。そして、わたしたちを神と人、人と人とを再び結ぶ主イエスの和解の務めを担う者としてくださいます。

主イエスの約束。どんなときにも、聖霊があなたがたに伴うから大丈夫だ！という力強い約束は、聖霊降臨によって実現しました。聖霊はわたしたちとともにおられます。今日あらためて、わたしたち自身にあの日、あの弟子たちに吹き荒れた聖霊が確かに働いていることを感じましょう。そして、弟子たちが派遣されたのと同じように、わたしたちも、この地、この教会に派遣されていること、そしてその使命に立ち返りましょう。和解のため、あの日、「あの」弟子たちが聖霊によって変えられ、使徒とされて派遣されたように、わたしたちもまた聖霊に満たされ、この世に、神と人、人と人とを結ぶために遣わされてまいりましょう。わたしたちにはいつも聖霊が伴ってくださっています。聖霊降臨日、おめでとうございます。